

プラス1



～いつもの支援を一工夫～

岐阜県立東濃特別支援学校
地域支援センター通信
No. 36 (H29. 12月号)

学校祭！ご協力ありがとうございました！

11月17、18日の2日間、「キラキラハッピー学校祭」を開催しました。1日目は本校、東濃特別支援学校での発表。2日目は、瑞浪市総合文化センターでの発表でした。日頃の学習の成果を発表することや、地域の皆様とつながることをテーマに企画しました。

ステージ発表だけでなく、作業販売や地域の児童生徒の作品展示、たくさんの関係機関の皆様の発表や展示、販売等、様々な催しものがそろい、大盛況のうちに幕を閉じることができました。たくさんのご協力ありがとうございました。



～地域土曜教室～

11月25日(土)に、地域土曜教室を行いました。多治見、土岐、瑞浪の3グループに分かれ、それぞれの地区の学校や施設をお借りして活動をしました。地域の皆様とのつながりを強くすることを目指して、台風の目や玉入れ等の様々な活動をしました。また、地域のボランティア団体や活動団体の方々にもご協力いただき、地域が同じ場でつながり合う素敵な活動となりました。



<貸し出し教材リスト>

地域支援センターでは、支援教材の貸し出しを行っています。ご利用の際は地域支援センター(0572-55-4821)までお気軽にご連絡ください。

- ・ビックマック
- ・状況認知絵カード
- ・各種検査器具 など



不登校と自尊感情の関係

1. 不登校の原因

本校の地域支援センターには、毎年、学校や保護者さんからたくさんの相談をいただいております。積極的に活用いただきありがたく思います。相談の内容は、就学先の相談であったり、効果的な支援の在り方など様々です。その中で、近年増加傾向にあるのが不登校の相談です。各学校でのきめ細かな支援を受けても、各市の適応指導教室での個に応じた対応を受けても登校できないお子さん達が、本校に相談にみえます。

こうしたお子さん達の話を知ると、不登校になった要因は、**①学力不信 ②発達特性 ③発達障がい**の3つに分類できます。そして共通してその背景に、自尊感情の低下があります。いじめによる不登校もありますが、それ以外は、「自尊感情の低下」が主な原因といえます。

学力不信に関しては、特に中学校の6月・10月に不登校が増加する傾向があります。これは、6月に中間テストがあり、10月に初めて成績表をもらいます。小学校までは、自分の学力の高低についてあまり自覚することがなかったのが、中学生になると、テストの点数などで、自分の学力を数値で具体的に目の当たりにします。これにより自尊感情が下がります。

発達特性に関しては、一般的に小学校の低学年より学年が上がるにつれ自尊感情が下がり、中学校2年生頃最低に落ち込みます。こうした自尊感情の低下に合わせて不登校が増えていきます。

発達障がいに関しては、ADHDの子ども達は、学習に対する自身の見極めが早いです。難しいと感じたり自分にはできないと思おうとすぐに学習を投げ出してしまう傾向があります。また、自閉症スペクトラムの子ども達は、人と協調して学習することが難しく、グループでの学習に困り感を感じています。こうした理由で学力が高まらず自尊感情を下げてしまいます。

学力不信

発達特性

発達障がい

自尊感情の
低下

2. コップの水をためて不登校解消へ

自尊感情を分かりやすく「コップの水」と例えることができます（森田直樹著「不登校は99%解決」より）。私達の体にはコップがあり、自信の水が溜まっています。これが自尊感情です。学校生活等でストレスが溜まると、この自信の水を使って解消します。どんどん自信の水が減っていき、コップの水が空になると家から外へ出る元気がなくなり、不登校になっていきます。



では、不登校にならない子ども達はどのようにして不登校にならないのでしょうか。それは、授業、部活、友達関係等、何らかで認め褒められる場があるからです。褒めてもらえると自信がつき、自信の水が溜まっていきます。適宜自信の水が注がれ水がなくならないようにすることが不登校の未然防止につながります。

不登校の症状が現れたら、認められる場があるか探してみてください。もし、なければ意図的につくってあげることが重要です。中学校だと教科担当の先生と協力して、いろいろな教科の時間に褒める場を作ったり、係活動で仲間から認められる場をつくったりすることも効果的です。完全に不登校になれば家庭と連携して、家庭の中で自信の水が溜まるよう働き掛けをお願いします。毎朝同じ時間に起きることができる、決まった時間にお手伝いをする等褒める内容は、なんでもいいと思います。そして、少し水が溜まったら相談室登校を促し、今度は、学校で自信の水を溜める場を位置付けます。自信の水を切らさないように配慮することが不登校の解決の一助になると考えます。